

## 「宇治市子どもの読書活動推進計画(第二次推進計画)【素案】」 に対する市民の皆様からの意見及び宇治市の考え方

「宇治市子どもの読書活動推進計画(第二次推進計画)【素案】」について、市民の皆様からご意見を募集しましたところ  
貴重なご意見をいただきありがとうございました。

お寄せいただいたご意見及びこれに対する宇治市の考え方を下記のとおり公表いたします。

### 意見募集期間

平成23年10月15日(土)から平成23年11月15日(火)まで

### 意見数及び意見提出者数

意見数 72件

意見件数 53件 重複内容は1件でまとめています

意見提出者数 23人

意見及びこれに対する宇治市の考え方

第2章第一次推進計画期間における成果と課題

2 学校等 における子どもの読書活動の成果と課題

No	意見等の概要	宇治市の考え方
1	<p>小中学の子どもたちにとって、自分で読書の時間を作って読書するのは、なかなか出来ない事と思いますので、学校で一斉読書の時間を設けていて、それが定着して読書量も増えているとの事、大変良い事と思いました。</p>	<p>本市の小・中学校では、一斉読書を学校の取組に位置づけて時間を確保し、それぞれ朝読書や昼読書に取り組んでおります。今後は、朝読書等の一斉読書の取組について、より一層の充実を図ることに努めてまいります。</p>
2	<p>小・中学校全てに図書館司書を配置することが、子ども読書推進において最も大切な事です。現在司書が7人になり、その成果が8頁にも書かれています。 主な課題に「学校図書館司書を市内の小・中学校に配置する」を入れるべきです。</p>	<p>本市では、学校図書館司書を配置し、司書教諭、学校図書館司書、ボランティア等が連携しながら、学校図書館の読書環境の充実を図っています。平成19年度には2人から5人に、平成22年度からは5人から7人に学校図書館司書を増員し、小中学校の読書活動の取組・強化を図っているところであり、まずは拠点校、巡回校それぞれの配置のあり方の工夫を含めて、成果と課題を検証する必要があると考えております。</p>

### 3 地域 における子どもの読書活動の成果と課題

No	意見等の概要	宇治市の考え方
3	<p>「 主な課題 に誰もが利用しやすい市立図書館環境の充実とさらなる利用促進」とありますが、具体的にどのようなことを考えておられるのでしょうか？宇治市の図書館は、19万の人口を有するのに、中央・東・西と3館しかありません。交通の便が悪く、その図書館の近辺に住む子どもしか、子どもだけで行けません。子どもの読書を推進するのであれば、地域においては、子どもが行きやすい、あるいは利用しやすい環境を整備する必要があります。たとえば、小学校や中学校に巡回図書館を実施することも一考に値します。巡回図書館は、子どもだけでなく、親も利用できます。親が本を読む姿勢をみれば子どもも本好きになります。(20頁とも関連します。)</p>	<p>読書活動を推進する拠点として、市立図書館は充実した蔵書を持ち、保管する役割があります。現在は3図書館のほかに、予約図書配本サービスを市内公共施設の4か所で行っております。</p> <p>また、今後はさらに、青少年センターなどの読書施設を持つ公共施設に団体貸出を行っていくことを検討してまいります。市立図書館以外の地域の読書活動の拠点として、これらの公共施設と連携を深め、施設の蔵書の整備や有効活用などに協力してまいりたいと考えます。</p>

### 第3章計画の基本

#### 1 計画の目標と基本的方針

##### (1)計画の目標

No	意見等の概要	宇治市の考え方
4	<p>計画の目標の終行に 挿入 自主的に読書活動ができるように環境の整備を図り、社会全体で推進します。</p>	<p>子どもの読書活動を推進するためには、子どもが読書に親しむための諸条件を整備することのほか、子どもが読書に親しむ機会を充実することや、子どもの読書活動への理解の啓発を図ることも重要と考えます。このような様々な要素を含めて、環境の整備を図ることが重要であり、ご意見を踏まえ、第3章 計画の基本 (1)計画の目標の最終行を修正いたします。</p> <p>第3章 計画の基本 (1)計画の目標の最終行を「自主的に読書活動ができるように環境の整備を図り、社会全体で推進します。」に修正いたします。</p>

5	<p>多くの歴史や史跡を持つ宇治市の伝統を受け継ぎ、郷土を愛し、未来へ引き継ぐ役割を育成することを目標に入れて、宇治市特有の計画書が作成できればと思う。</p>	<p>本計画の上位計画である「宇治市第5次総合計画」のまちづくりの目標に「お茶と歴史・文化の香るふるさと宇治」と掲げられているように、子どもの読書活動にかかる各種取組の中で、宇治市ならではの特色を出してまいりたいと考えます。ご意見を踏まえ、第3章 計画の基本の中で、文章を補足修正いたします。</p> <p>18頁 第3章 計画の基本(1)計画の位置づけ 6行目  「また、本計画は、上位計画である「宇治市第5次総合計画」におけるまちづくりの目標として『お茶と歴史・文化の香るふるさと宇治』が掲げられているように、歴史と伝統、文化に恵まれた宇治の特色を生かしながら、その他の関連計画とも整合を図り、市民との協働により推進していきます。」に修正いたします。</p>
---	--	---

## 2 計画の性格と役割

### (2)計画の対象

No	意見等の概要	宇治市の考え方
6	<p>19ページに、この推進計画の対象となる「子ども」とは、41ページの資料にある『子どもの読書活動の推進に関する法律』に則って「0歳から概ね18歳まで・・・」と書かれていますが、9・14・18ページを読み進める限り、高い年齢層でもせいぜい小・中学生に向けての調査・取組で、“18歳”に該当する高校生・青年層は調査の対象にもなっていません。これは、推進計画の進行に伴ってこれから取組が始められるのか、または高校・社会教育に取組を委ねるのか、どちらにしても中学・高校生に該当する「子どもたち」への読書推進についての素案は必要なものと考えます。</p>	<p>ご意見のとおり、本計画の対象は、『子どもの読書活動の推進に関する法律』に合わせ「0歳から概ね18歳まで」としており、子どもの成長段階(青年層含む)に応じた各種取組を推進してまいりたいと考えます。15頁の記述にあるように、「宇治市子どもの読書活動推進委員会」が毎年実施する事業(取組)の中で、平成19年度に実施しました「子どもの読書活動推進のための標語・イラスト募集」においては、中高生を含め多数の応募があり、素晴らしい作品がたくさんありました。頂いたご意見を今後の各種取組に活かしながら、青年層を含めたすべての子どもたちの読書活動を推進してまいりたいと考えます。</p>

(3)計画の期間

No	意見等の概要	宇治市の考え方
7	計画期間の10年は長い、5年で見直すべきと思います。	上位計画である第5次総合計画との整合を図るため、平成24年度（2012年度）から平成33年度（2021年度）までといたします。（10年間） ただし、5年で中間見直しを行うとともに、本計画に基づく取組の進捗状況、子どもの読書活動を取り巻く社会状況の変化等に伴い、必要に応じて計画の見直しを行ってまいりたいと考えます。
	計画の期間 10年間 5年間 （高度情報化の今日、10年はあまりに長い期間です。）	

第4章子どもの読書活動推進のための方策

1 家庭・学校・地域等における子どもの読書活動の推進

(1)家庭における子どもの読書活動の推進

No	意見等の概要	宇治市の考え方
8	子供の通う小学校で、図書館ボランティアをしています。学年が上がるにつれて、本離れがすすんでいくのは、親自身も本離れていることもあると思います。幼いころは、一緒によく読んでいたのに、だんだん、子供まかせになっていってしまい、親の本を読む姿を見せることが少なくなっているのではないのでしょうか。子供に読書をすすめる活動に、親・保護者もどんどん巻き込むことが必要だと思います。そして、わくわくしながら、集中して本を読む親の姿を、子供にみせてあげてほしいと思います。	22頁の記述のとおり、子どもの読書習慣は、日常生活を通して形成されるものであり、そのためには、子どもの最も身近な存在である保護者自身の読書活動に対する姿勢が重要です。頂いた意見を参考にしながら、今後はこれまで以上に、保護者の理解を促進し、実践を奨励するために、子育て支援に関する事業や家庭教育に関する講座、市立図書館等での「おはなし会」など保護者や親子が集う機会、学校等からの配布物や各種ホームページを通じて、子どもの読書活動を推進するように啓発に努めてまいりたいと考えます。併せて、保護者自身も読書活動に親しむなど、保護者の読書活動も推進してまいりたいと考えます。
	子どもの読書活動に対する保護者の意識向上をめざして、子どもの発達段階に応じた読み聞かせや親子読書の情報提供、子どもの本の講座・家庭教育学級等の開催。	

	<p>親にも本をよんでもらうすすめを！「親子ラリー」のような取り組みを！</p>	
<p>9</p> <p>「ブック・スタート」時に、現在、小中学生を持つ保護者に体験談を語ってもらい、乳児からの読書習慣の意義をよりわかりやすく、推進する。</p>	<p>家庭での読書離れが懸念される。 親といっしょに読書という姿が見られない。子ども達に読書、読書と言いながらも、家庭での環境が整っていないのではないか。</p>	<p>本市では、ブックスタートとして、「はじめての絵本ふれあい事業」を実施しております。本事業は、3か月児検診及び1歳8か月児検診時に、乳幼児とその保護者を対象に実施しているもので、絵本などを配布し、市立図書館職員やボランティア等による絵本の読み聞かせや、保健師による助言指導を行うことにより、親子のふれあいの重要性について啓発を図っております。頂いたご意見を踏まえ、乳幼児期からの読書活動の重要性についての啓発方法の工夫を検討してまいります。</p>
<p>10</p> <p>私の場合、孫たちにプレゼントをする時は、いつも「本と何かちょっとしたもの」に決めています。図書券をあげると、マンガや雑誌を購入するかもしれないので、私なりに選んで渡します。その際、必ず私自身も読んで内容を把握してから贈る事にしています。そうすることで、後日、それについて孫たちとの会話も出来ますし、一挙両得です。</p>		<p>頂いたご意見を参考に、本市としましても子どもの読書活動推進に資する取組の充実に努めてまいります。</p>

(2)学校等における子どもの読書活動の推進

学校における子どもの読書活動の推進

No	意見等の概要	宇治市の考え方
11	<p>文字離れが言われている中、早い取り組みが大切と思われます。学校での10分間読み聞かせも一つの方策だと思います。図書館の取り組みの1つとしてとして、各学令に合ったテーマを決め、読んだ本についての意見発表会なども読書に向う一つの取り組みではないでしょうか。この場は、自由に発表し合い、又、他者の意見を聞く場で互いを認め合い高め合う場になるのではないのでしょうか。場の設定は、大人の側は、充分配慮する必要があるとは思いますが、感想文などより身近に感じられるのではないのでしょうか。</p>	<p>各学校では、文字離れ・本離れを解消するために、朝読書など、全校一斉に時間を確保することで書物に親しむ取組を始め、ご意見にあるような様々な取組を実施しています。文字離れ・本離れの解消を目指して、今後より一層読書活動の充実に努めてまいります。</p>
12	<p>子ども達は、いそがしく、「本を読む」という時間をとりにくい。それでも、様々な取り組みで、本にふれる機会は、増えていて、親しみはもっている。「勉強・宿題をしなければならない」「外で遊ばなくてはならない」「手伝いしなければならない」「ゲーム・テレビ・録画番組も見たい」そんな中、「読書の時間」を学校でとってあげると、読むことが苦手な子も、その時間帯は本だけに集中できる。</p>	<p>ご意見のとおり、大人社会を反映して余裕のない多忙な子どもたちが増えています。意識・実態調査の項目「本を読みたいと思っているがあまり読めない理由」でも、「習い事」「クラブ」「勉強や塾」で時間がないことを回答する児童生徒が多くいました。保育所・園・学校では、より一層読書の時間の確保に努め、子どもたちに本を手にする喜びや本の世界に浸る楽しさをはぐくんでまいりたいと考えます。</p>
13	<p>自分の読んだ本を友達に紹介する機会をつくるのはどうでしょうか。同じ本を読んで、会話がはずめば、もっと読書を楽しめるのではないかと思います。</p>	<p>子どもや職員によるお薦めの本の紹介を掲示したり、学級で交流したりするなど、本の紹介に取り組んでいる学校図書館や学級はあります。子どもたちは友達による本の紹介に興味深く聞いています。今後は、更に充実・工夫した取組にしていきたいと思います。</p>

14	<p>高学年の子も絵本を喜んだり、低学年でも読みきかせれば、難しい本を楽しみます。いろいろな形で楽しんでほしいです。</p>	<p>学校によっては、高学年児童による低学年児童への読み聞かせだけでなく、低学年児童が高学年児童に読み聞かせをする取組もみられます。また、教師や学校図書館ボランティアによる読み聞かせに、高学年児童も喜んで参加しています。今後も、固定的に考えずに、様々な形で様々な本に出会うことができるように努めてまいりたいと考えます。</p>
15	<p>子供は、見なれたものや知っているものには手がのびるようです。図書館だよりのおすすめ図書の紹介などは、とても良いと思います。カラー印刷や字を大きくして、目を引くような紹介記事がもっとあると良いですね。</p>	<p>子どもや保護者に親しまれるように、図書館だよりの内容の充実を図り、併せて読書意欲を高めてまいりたいと考えます。</p>
16	<p>子どもは、現在のもの、最新のものにも興味があるが、昔のものにも同様に興味を持っている。昔の教科書や本などの展示ブースが図書室にあると嬉しい。</p>	<p>学校図書館では、様々なテーマによる書籍コーナー等を工夫しています。頂いたご意見を踏まえ、今後、宇治市歴史資料館等とも連携しながら、取組に生かしてまいりたいと考えます。</p>
17	<p>調べ学習などで、パソコンを使うことの多くなってきた最近、かんたんにすばやく調べる手軽さも必要ですが、小学生には、是非、「かんたん」「手軽」ではない方法を体験する事も大切だと追記したいです。</p>	<p>学びの在り方の本質に関わる貴重なご意見をありがとうございます。学校では、コンピュータでの検索だけでなく、辞書・事典・書物による調べ学習等で、子どもたちは「かんたん」「手軽」ではない学習の方法も体験しております。自分で苦労して情報を収集・精査し、思考を深めていく取組を充実させてまいりたいと考えます。</p>

18	<p>各校独自の読書活動推進計画の策定は素晴らしいと思いますが、誰が、いつまでに作り、どう発表するのか、具体策が必要と思います。</p>	<p>具体策として以下のとおり考えます。      大前提として、読書活動推進計画策定の意義について共通理解を図ること、各校の読書活動の課題について明らかにする。年度当初に、司書教諭を中心に図書館教育に係る分掌組織で同計画を立案、全職員で検討して共通理解を図る。進捗状況について進行管理し、年度末には評価を実施して改善点を次年度に引継ぎ、より実践的な計画にしていく。計画策定にあたっては、学校図書館司書、ボランティアの意見等も踏まえる。      各校独自の特色を活かした読書活動推進計画を基に、読書活動が充実していくよう努めてまいります。      読書以外にも各校には様々な計画があり、公表のあり方につきましては今後検討してまいります。</p>
19	<p>子供が在学する小学校で、図書ボランティアをしております。すごく図書室利用が盛んな学校で感心します。しかし、子供の規模を考えると、本の数・スペースがもっとあればと思います。種類に関しても、子供達に悪影響を与えるものは除きますが、学習に対してという分野に限らず、趣味などいろいろなジャンルのものが増えると、本に興味をもつ子が増えたり、視野も広がると思います。</p>	<p>ボランティア活動に、ご協力いただきありがとうございます。各小中学校の蔵書数については、充実に向けた取組を行っており、年々増加してきているところです。図書の選定については、各校の判断で各校の特色と実情にあわせ購入が行われています。スペースについては、施設面の制約もあり早急な対応は困難ですが、今後も読書環境の充実に努めてまいります。</p>
20	<p>学校間連携による学校図書館の蔵書の有効活用について      各小学校のデータベース化が出来ているので、相互検索・相互貸し借り、そして市立図書館を含めた「地域ネットワーク」を目指すべきです。</p> <p>全小学校の蔵書データベース化が完了したが、ネットワーク化されていないのは非常に残念です。学校間、また市立図書館と繋がってれば、蔵書の貸借有効利用が出来るので、ネット化を挙げてほしい。</p>	<p>第一次推進計画期間において、全小学校図書館の蔵書データベース化が完了し、これによりスムーズな貸出返却、正確かつ容易な蔵書管理、児童の読書傾向の随時把握等ができるようになりました。今後は、この結果を踏まえながら、中学校図書館の蔵書データベース化を進め、読書環境の向上に努めてまいりたいと考えます。学校間連携による蔵書の相互貸出等の有効性は認識しておりますが、ネットワーク化等については、セキュリティ対策を含めて慎重に進める必要があります。また、ネットワーク化による効果、相互貸出の手法についての検証が必要であり、今後の検討課題といたします。</p>

	<p>中学校図書館のデータベース化中のところ、後からの工事は不経済。合わせてネットワーク化できないのか？</p>	
21	<p>学校図書館を支えるボランティア人材を養成するための研究機会の充実について 「学校図書館ボランティア養成講座」だけでなく、ボランティア交流会を開催して下さい。</p>	<p>学校図書館ボランティア養成講座等の中で、ボランティア団体の活動を紹介するなど、ボランティア交流の要素も取り入れております。学校図書館ボランティア養成講座等の内容については、さらなる充実に向け、今後も検討してまいります。</p>
22	<p>小学校の図書環境がとても良く、子ども達が頻繁に図書室へ行き、読書の楽しさを味わえているのは、司書の先生方を中心とした図書教育のお蔭とっております。 自校、他校問わず、お友だちと本のお話をしている様子を見ても、本の大切さを感じます。 図書館ボランティアの講習を受講させて頂きましたが、とても充実しており、今後も是非続けていただきたいと思います。</p>	<p>ボランティア活動に、ご協力いただきありがとうございます。今後とも学校図書館ボランティア養成講座の充実に努め、学校における読書活動の取組充実を図ってまいります。</p>

現在7名の学校図書館司書では、拠点校でも週2日、ユニット校では月2日の来校で、中途半端な活動となっており、『全校配置』が必要です。尚、図書ボランティアでは、学校図書館司書の代行はできません。

子供が小学校へ入学してから、4年間、少しだけですが、学校の図書室のお手伝いをさせていただいています。自分の小学校の時と違うなど驚いたことは、司書の先生が、各学校に一人ずついらっしやらず、何校かを分担で、回っておられるということでした。様々な事情があるかとは思いますが、司書さんの数を少しでも、増やしていただけたら、と思いますので、よろしく願います。

子供が本に接する時間が、確実に少なくなっている中、朝、読書や読書週間などの取り組みで、大人が必死で『つないでいる』ように思えます。学校図書館では、司書の先生が常におられれば、スムーズな運営ができますが、図書館ボランティアだけで開館するには限界がある事を実感しています。自然に本に親しみ、読解力を身につけられる程になるには、本当に長い時間が必要だと思えます。

小学校の基本的学習の成長の中で、学校図書館の充実（蔵書数、司書、環境等）が、まだまだだと感じています。

今年度は、司書さんの在勤校で、司書さんの高い影響力を実感しております。1日中でなくとも司書さんのいられる図書室が増えると、その学校の図書活動が活発になると思います。

学校における図書室の活用について  
宇治市としても多額の費用を投じて、その充実を図っていただいているし、学校も選書会を通して、子ども達に意識の高揚を図っているが、校内の司書教諭だけでは、活動ができにくい。市職の図書館司書も配置いただいているが、常設でないため。まだまだ不十分である。図書館司書を中心とした学校図書館機能の充実が必要。

学校司書に関しても、だんだん充実している様ですが、本を読みたいが読みたい本が分からない子供が多いとの事、是非、一校に一人の司書をお願いしたいものです。

本市では、学校図書館司書を配置し、司書教諭、学校図書館司書、ボランティア等が連携しながら、学校図書館の読書環境の充実を図っています。平成19年度には2人から5人に、平成22年度からは5人から7人に学校図書館司書を増員し、小中学校の読書活動の取組・強化を図っているところであり、まずは拠点校、巡回校それぞれの配置のあり方の工夫を含めて、成果と課題を検証する必要があると考えております。蔵書については充実に向けた取組を実施し、年々蔵書数が増加しているところです。また平成21年度には全小学校の図書館データベース化が完了し、中学校においても順次データベース化を進める等、環境充実に努めてまいります。

小・中学校の学校図書館司書を（できれば一校に一人を目標に）増員する予算があれば、朝の時間やHRを利用した本の紹介や本の読み聞かせなどの具体的な提案の機会が増やせます。本と接することが多くなれば感動したり心に残ったりして、自分から本に向かうような子どもも増加すると思われます。

学校図書館司書について  
増員されたことはいいことですが、巡回ではなく、各学校に配置して欲しいと思います。知りたい時に知りたい情報を子どもたちに手渡すことによって、子どもと本をつなげることができると思います。

アンケート「本を読むのが好き」しかし「読みたい本がわからない」  
各小中学校に学校図書館司書の配置。

24

教職員対象の校内研修や研究会は必要な事ですが、担任を持つ司書教諭は余裕がなく、学校図書館司書は専任でないので、外部から知識のある人を、各学校に派遣すべきと思います。

教職員対象の校内研修等については、学校側からの要請に応じて、学校図書館司書が講師となって教職員対象の校内研修を行う等の取組を行っています。また、学校図書館司書については、定期的に研修を受講する等、知識の向上に努めています。今後とも学校図書館司書等の知識向上に努めるとともに、様々な研修の充実に努めてまいります。

25	中学校の図書室の開放。(ボランティアに依存することなく常時の開放を)	学校図書館の開館時間を含めた運営については、各校の管理運営や教育方針等に基づき、各校の判断で実施しております。今後とも、各中学校と協力しながら、開館時間の確保に努めてまいります。
----	------------------------------------	---

(3)地域における子どもの読書活動の推進

市立図書館における子どもの読書活動の推進

No	意見等の概要	宇治市の考え方
26	図書館の読書の取組の一環として人形劇サークルの発表をされていますが、予算を増額し内容を充実させていって頂ければと思います。	ボランティア団体やサークル等の皆様のご協力により、子どもたちにとって楽しい催しを行っています。厳しい本市の財政状況ではありますが、今後もボランティア団体やサークル等の皆様の協力を得て、創意工夫しながら、子どもたちに喜んでもらえる企画を行ってまいりたいと考えます。
27	アンケート「本を読むのが好き」しかし「読みたい本がわからない」市立図書館レファレンスサービスの強化。司書等職員の研修の充実。	市立図書館では、子どもたち、また保護者の方から、どんな本を読めばいいか、と質問を受けることがよくあります。年齢や好み、また調べものの際は目的などをお伺いして、本を選ぶ支援をしています。 レファレンスに関する研修にも積極的に参加し、今後もさらに、スタッフ一同研鑽を積んで、子どもたちに適切なアドバイスができるよう努めてまいります。

28	<p>(大型でない) 借り出しやすい児童書を、今より多くご購入願いたいと思います。28ページに「児童書は約9万3千冊で、・・・着実に蔵書数が増加しています」とありますが、11ページの冊数の推移グラフではH21～22年にかけて19冊しか増えていません。</p>	<p>市立図書館の蔵書(児童書)冊数については、平成22年度に児童書を2,055冊購入し、平成18年度から平成22年度の間に4,324冊増えました。児童書は傷みも激しいので、買い換える本も多くあります。また、調べ学習に使うような知識の本は、情報が古くなると除籍して、新しい本を購入しますので、蔵書数が著しく増加することがないという事情があります。</p> <p>厳しい本市の財政状況ではありますが、必要な本を確保し、また子どもたちにとって魅力的な新しい本を購入していくよう、今後も努めてまいります。</p>
29	<p>図書館独自のホームページを充実させて下さい。図書館との接点もてるようなホームページを作って下さい。新刊図書の紹介、行事の紹介等、市民や子どもが少し無理をしても出かけていこうかという気持ちにさせる内容のものを作って下さい。若者や若いお母さん方はインターネットを駆使しています。これからの時代を先取りして下さい。</p>	<p>市立図書館ホームページは、お知らせや新着図書の案内、行事予定等を掲載しておりますが、さらに市民の皆様に興味をもってご覧いただけるホームページ作りに努めてまいります。</p>
30	<p>アンケート「図書館が家の近くにあると利用する」 子どもも習い事などで忙しく、図書館まで行けない状況の中、「予約配本サービス」を活用すれば、読みたい本が手に入る。配本所の増設を推進。</p>	<p>子どもが読書に親しむためには、身近なところに気軽に読書ができる環境があることが必要であると考えます。地域子育て支援基幹センターや青少年センターなど市立図書館以外の公共施設にも読書スペースがあります。こういった施設が、身近な読書活動の拠点となるよう、連携を深めていきたいと考えております。なお、配本所の増設につきましては、第二次推進計画の進行管理の中で、検討してまいります。</p>

31	<p>“移動図書館”を復活して頂ければ、子どもたちのみならず巡回地域に本を広める取組にも役立つことと思います。</p>	<p>移動図書館は、市立図書館から遠く離れている地域に赴くことができるメリットがありますが、巡回回数や滞在時間に制限があるなどのデメリットもあり、昭和60年度では、全体の23.1%を占めていた移動図書館の貸出冊数も、東宇治・西宇治図書館開館後は減少の一途をたどり、平成14年度には2.4%にまで激減いたしました。このような状況から、移動図書館はその役割を終えたと判断し、廃止するに至った経過があります。現在のところ、移動図書館の復活は予定しておりませんが、第二次推進計画では、学校図書館の充実、予約図書配本所の活用、地域・家庭文庫への団体貸出、市立図書館以外の公共施設の読書スペースの活用など、子どもが身近なところで本に触れることができるよう環境を整備、充実を図ることとしており、それは、地域の読書環境の整備、充実にもつながると考えております。</p>
32	<p>図書館については、図書館員の方全員が司書の資格を持って、本のことを子どもたちが尋ねやすいようになってほしいと願います。</p> <p>市民や子ども達に読書活動を推進して行くには、司書資格を有する職員を増やし、図書館職員の研修を全員が受けられるようにして下さい。</p>	<p>カウンター、電話等での応接は、司書資格の有無に関係なく、子どもたちにとって親しみやすく親切な対応をするよう、引き続き心がけてまいります。</p> <p>図書館スタッフの研修につきましては、外部研修は、予算や図書館の運営上、すべてのスタッフを参加させることは困難ですが、研修結果を報告するなど、研修に行っていないスタッフも内容を知ることができるようにしています。今後も積極的に外部研修に参加してまいります。また、困難なレファレンス事例などは、日常的に情報交換・情報共有しており、今後も引き続き行ってまいります。</p>

33	<p>司書資格を持っていない職員がいるとのことですが、やはり図書館は市の文化発信の中心でなければなりません。本のことについて聞いた時、スペシャリストとしての確に答えてくれることを私たちは望みます。専門職でない人がいる図書館では、市の文化を低下させることになりかねません。ただ行事をするだけでなく、文化のレベルアップをするためには、行政が、市民運動から生まれた図書館の存在をもっと高く評価し、人材の育成をし、子どもが本を読みたくなるような環境を整え、与えていかなければいけないと思います。</p>	<p>図書館法第13条第1項に「公立図書館に館長並びに当該図書館を設置する地方公共団体の教育委員会が必要と認める専門的職員、事務職員及び技術職員を置く」となっているように、各職種の職員が連携しながら図書館業務にあたっております。司書は、図書館運営の主要な担い手ではありますが、司書資格の有無が、宇治市の文化レベルを左右するとは考えておりません。</p> <p>市立図書館スタッフは、日々カウンター等で市民の皆様と接する中で、生の声を聞き、様々な経験を積んで的確なアドバイスができる人材に育つと考えます。</p> <p>市立図書館が、子どもたちの健やかな成長に欠くことのできない読書活動を支える施設であるということを認識し、業務に当たるよう今後も努めてまいります。</p>
34	<p>図書館の運営とスタッフの問題</p> <p>どのような活動についても、中心になるのは司書等のスタッフです。子どもたちと書物はスタッフを通じて出会います。専門職として長く子ども達と付き合っていたきたい。そのためにも基本的に身分の不安定な非正規職員は不適當です。やむを得ず非正規の形で勤務される場合でも、すべてに平等に研修等の機会が与えられるべきです。</p>	<p>司書をはじめ本市の非常勤嘱託職員の雇用期間は1年ですが、図書館メンテナンス業務においては特に専門性があり、それには経験の蓄積が重要であると認識しております。今後も雇用にあたっては最大限配慮に努めたいと考えます。</p> <p>研修については、外部研修は、予算や図書館の運営上、すべてのスタッフを参加させることは困難ですが、研修結果を報告するなど、研修に行っていないスタッフも内容を知ることができるようにしています。</p> <p>また、日常的に情報交換や情報共有を図っており、今後も研修機会の充実に努めてまいります。</p>

民間団体等における子どもの読書活動の推進

No	意見等の概要	宇治市の考え方
35	<p>私は地域文庫に携わっている者ですが、この度の統計を見せて戴き、地域文庫の存在も知らない人が多いのに驚きました。毎月、その月の文庫のある日をポスターに書いて、児童公園や市の掲示板、その他あちこちに貼っているのですけれど……。もっと別の宣伝方法も考えなくては……。と思いました。</p>	<p>自宅や公民館・集会所など、子どもの身近な場所で本の貸出やお話会などを行う地域・家庭文庫活動は、子どもの読書活動を推進するうえで、重要な役割を担っていると認識しております。今後、広報活動の支援などでも、連携・協力してまいりたいと考えております。</p>

2 家庭・学校・地域等の連携・協力による子どもの読書活動の推進

(1)学校等と市立図書館の連携・協力

No	意見等の概要	宇治市の考え方
36	<p>学校等と市立図書館の連携協力は、今、そして将来の子ども達、市民の読書環境、情報提供にとって重要な視点であると思います。具体的には、現在の取組である市立図書館から各学校への本の貸出のより充実（簡便かつ情報提供等）の方向願っています。</p>	<p>平成19年3月策定の「学校図書館と市立図書館の連携についての指針」に基づき、平成19年度に「学校図書館と市立図書館連絡会」を開設しました。学期に一回のこの連絡会の場で、現状の報告、学校団体貸出などについて協議し、相互交流を図っています。今後も一層連携を深め、よりよい協力体制を築いていくよう努めてまいります。</p>

(2)学校等と民間団体・ボランティア等との連携・協力

No	意見等の概要	宇治市の考え方
37	<p>学校等におけるボランティアの受け入れ体制の充実について学校により意識の差が大きく、管理職の研修が必要と思います。</p>	<p>学校図書館の運営については、学校図書館ボランティアの協力は重要であると認識しております。また、登録者数・登録のある学校数は増加傾向にあります。学校図書館ボランティアに関する学校管理職を対象とする研修は予定しておりませんが、今後さらに、学校と協力しながらボランティア活動の充実に取り組んでまいりたいと考えます。</p>
38	<p>今回、図書ボランティアをさせて頂く事になり、改めて本の楽しさをもっともっと子供達に知ってもらえたらなと感じました。活字離れと言われていますが、休み時間に沢山の子供達が図書室に来る姿を見ると、やはりとてもうれしく思います。でも、本を読むよりも外で遊ぶ方がいい！という子供達も多いことでしょう。それを親が無理に読みなさいと言いかせても限界があります。私達の学校では、朝、読書という時間が設けられています。子供達は、マイブックとよんで、家から持って行ったり、図書室で借りたりした本を読んでいます。そういう機会をもっと活用して、読書好きな子が一人でも多くなるよう、私自身もボランティアを通じて、協力していきたいと思っております。</p>	<p>学校におけるボランティア活動に、ご協力いただきありがとうございます。今後とも学校における読書活動の充実に努めてまいります。</p>
39	<p>小学校の図書館ボランティアをさせていただいていますが、映画やTVで観た物を本で読む子ども達もいて、ページをめくるワクワクとした気持ちをずっと持ち続けて欲しいと願っています。 授業で、宇治について、お茶について勉強、調べ物をするので、私以上に子どもは、宇治についてよく知っています。調べる お茶の施設に行く、茶だんごを作る(体験) 調べる。体験と本を通して、宇治好き、本が好き子どもが増えていけば嬉しいし、そのお手伝いを続けていきたいと思っております。</p>	

(3)市立図書館と民間団体・ボランティア等との連携・協力

No	意見等の概要	宇治市の考え方
40	市立図書館には、ボランティアの「宇治市図書館友の会」がありません。	<p>「宇治市図書館友の会」は、「宇治市図書館の健全な発展と充実に寄与するとともに、地域文化の向上を図る」という会の趣旨に賛同される図書館登録サークルやボランティア団体などに所属されている方、あるいは個人の方たちからなる団体と認識しております。今後も「宇治市図書館友の会」との意見交換を通じて、市立図書館の発展と充実に努めてまいります。</p> <p>なお、本文中には、具体的な団体名、サークル名は掲載しない形で統一しておりますので、ご理解ください。</p>

4 子どもの読書活動推進体制

No	意見等の概要	宇治市の考え方
41	<p>宇治市子どもの読書活動推進委員会について。別表の構成メンバーについて。</p> <p>計画案全体を通して、家庭・学校・地域との連携・協力が述べられているのに、なぜ構成メンバーに、家庭・地域・図書ボランティアが含まれていないのか？</p>	<p>宇治市子どもの読書活動推進委員会の構成委員については、ご指摘のとおり、家庭・地域・ボランティアの立場の方が含まれておりません。家庭・地域・ボランティアの立場の意見については、各種調査や構成委員による関係者への聞き取り等により、意見を会議に反映させているとともに、各種施策の推進にあたっては、適宜、「宇治市生涯学習審議会」からもご意見を頂いております。この「宇治市生涯学習審議会」には、図書館教育や子育てに関する識見を有する者も含んでおります。頂いたご意見を踏まえ、今後さらなる当推進委員会の充実を図るため、構成委員の見直しを検討してまいりたいと考えます。</p>
	推進委員会に市民の代表を入れて下さい。	

第4章全体について

No	意見等の概要	宇治市の考え方
42	<p>読むことと書くことのかかわりについて  「読書活動推進」という主題からして、「読ませる」ことが中心になるのは当然ですが、読むことと書くことは表裏一体です。「読む」というのは、たとえ自分から読みたいと思ったとしても、受動的な行動です。「書く」ことは能動的な行動です。「読む」とともに「書く」ことによって、言葉や文章の面白さを知り、書物への興味も一段と深まるでしょう。子どもたちの「書くこと」「書く力」を育てる活動を取り入れていただきたいと思います。以下、いくつか思いつく事例を挙げます。</p> <p>(1)読書感想文募集  親と子が同じものを読んで、それぞれ感想文を書くのもよいかと思えます。</p> <p>(2)短歌、俳句、詩の募集  市内に著名な俳人もおられ、選などお手伝いいただける方はすぐに見つかると思います。源氏物語に力を入れている宇治市が文学都市としてもっともっと心豊かな街になってほしいと願っています。</p>	<p>ご意見のとおり、読むことと書くことは表裏一体のものとも考えられますが、子どもの読書活動の推進にあたっては、まずは、楽しく、自ら読むことを推進し、同時に「書く力」を含む表現する力も養ってまいりたいと考えます。また、第二次推進計画では、「ことばの力」の育成を踏まえた子どもの読書活動を推進することを明記しております。「ことばの力」とは、言語をとおして知識や技能を理解する力 言語によって論理的に考える力 言語を使って表現する力を指しており、この「ことばの力」を豊かにはぐくむことにより、「書く力」もはぐくまれると考えます。</p>

43	<p>芸能など視覚的なものによって読んだ内容を高めたり、膨らませたりする活動</p> <p>これまでも、読み聞かせ、紙芝居、人形劇など活字だけでなく耳から入ってくる言葉に触れる機会を作っていたに感謝いたします。それだけでも大変だと思いますが、もう一步進めて、子どもたちが良質の芸能に触れることができたならどんなに言葉が豊かになり、書物への興味も深まることだろうと思います子どものための落語会があったら、といつも思っています。漱石の「我輩は猫である」など、読むには落語を知っているのと知らないのとでは大違いです。知識だけでなくユーモアのセンスが問題なので、残念ながら日本の家庭や学校にはこれが全く不十分です。「難しい」と思われがちですが、能や狂言にも触れさせたいと思います。むしろ、頭で考える大人より子どもたちは素直で、感性で見てください。宇治川の橋合戦を主題にした「頼政」を見てもらうことで、「平家物語」に興味を持ち、また、宇治の歴史に関心を持つようになってくれたら、古典文学や歴史を単なる知識以上に実感してくれるでしょう。このような企画には予算が必要なことは確かです。しかし、工夫をすればいろいろな方法でクリアすることができます。実は、私は能楽を仕事にしているものです。協力できることがあれば何でもいたします。</p>	<p>頂いたご意見を参考に、今後一層、宇治市歴史資料館等の関係機関との連携を進めるとともに、市民の協力も頂きながら、様々な角度から子どもの読書活動推進に資する取組の充実に努めてまいります。</p>
44	<p>今の時代、ゲームやパソコンがかなりの割合で普及していて、正直、我が家の中1の息子もこの波に乗っている一人です。ゲームをする以前の幼かった時は、本が大好きで、自分で読んだり、読み聞かせをしてもらうのが大好きな子でした。ゲームをやりだす様になってから、家ではなかなか本を読まなくなったので、心配していましたが、本の題名や内容、それに関する事柄等知っていることが多かったので、聞いてみると、学校の図書室をよく利用していた様です。本の種類も豊富で、本当に有難い場所だと思っています。</p> <p>小2の娘は、逆に本が大好きで、家でもよく読んでいます。『本を読む』と言う事は、とても大切な事だと実感しています。子供に偉そうな事を言っておきながら、私自身は読書をする事を怠っていますので、これを機会に読書タイムを作りたいと思っています。“しおり”の様に本をたくさん読んだら、ごほうびが頂けるという事も、子供の読書意欲をあげるということで、有難い事だと思います。</p>	<p>頂いたご意見を参考に、本市としましても子どもの読書活動推進に資する取組の充実に努めてまいります。</p>

45	<p>「本の取り組み」は、本にもともと興味のある家庭が、図書館のお話会に連れて行ったりするように思うので、全くちがうアプローチ、スポーツクラブやDSのバトルのイベントや映画とコラボレーションした、本にあまりなじまない人たちへの企画はどうだろうと思う。</p>	<p>頂いたご意見を参考に、これまであまり本になじみのない人たちにも子どもの読書活動について関心を持ってもらえるよう、斬新な企画や広報活動の充実に努めてまいります。</p>
46	<p>子供は小学校の高学年と低学年ですが、就寝前や普段のちょっとした時間に、読み聞かせをしています。絵本ではなく、小説を少しずつ区切って読んでいます。子供たちがおもしろいと感じると、続きを自分たちで読み始めたりしますので、読書の意欲をかりたてるのは、まわりの人が、少し何かをすればいいのでは……。学校だったら、例えば、授業の時間を使って、クラス単位で公共の図書館へ連れて行くなど（大変だとは思いますが）。図書館でたくさんの本を目の前にすると、本に興味がない子供でも、読みたくなるかもしれないです。</p>	<p>ご意見のとおり、子どもが読書に対して心が動くようになるには、周りの大人の姿勢やはたらきかけも大きな要因であると考えます。頂いたご意見を、今後の取組に反映してまいりたいと考えます。</p>
47	<p>クラブに習い事、テレビやゲームと、忙しい現代の子どもたちに、もう少し読書に振り向ける時間があればと願う立場から、計画書を読ませて頂きました。調査の結果はていねいにまとめられていると思いました。宇治市の子ども読書推進の取組で、子どもたちの読書量も小学生の読み聞かせ経験も少しずつ増えているのがわかりますので、さらに増えていくようにこの取組を続けていってほしいと思います。ただ、それらの計画の推進のために、活動の裏付けとなる予算がどれくらいのか・どう推移しているのか（予算が増えているか減っているか）、説明がなされていません。</p>	<p>ご意見を踏まえ、図書購入費の推移を掲載します。厳しい本市の財政状況ではありますが、今後も保育所や幼稚園・学校、市立図書館等、関係機関がそれぞれの場において、子どもの読書活動の推進にかかわる財源の確保に努めてまいります。</p> <p>資料編に図書購入費の推移を掲載します。</p>

計画全体を通じて

No	意見等の概要	宇治市の考え方
48	第一次案では、「財政上の措置」が書かれていたが、第二次案で入っていないのはなぜか。	計画を進めるにあたって、財政上の措置は重要であります。記述の有無に関係なく財源の確保に努めていくため、記述の必要性はないものと判断しました。今後も保育所や幼稚園・学校、市立図書館等、関係機関がそれぞれの場において、子どもの読書活動の推進にかかわる財源の確保に努めてまいります。
49	全体を通読して感じたことは、内容が重複していて分かりにくい。これが第二次推進計画書であることを明確にするために、第2章の「第一次・・・」は第1章に入れて、「第二次・・・の背景」として扱う。その内容もタイトルのように成果と課題として簡潔に表現し、資料などは出来るだけ後の資料集に記載して「資料No. 参照」とする。	<p>本計画は、第一次推進計画の成果と課題を明らかにしたうえで、社会状況の変化に伴う今日的な課題、国及び京都府等の動向を踏まえながら策定することとしており、そのために第2章を設けています。そのため、構成変更はしませんが、ご意見を踏まえ、施策体系図を掲載するとともに、別途作成する概要版において、できる限り内容をわかりやすくするように努めます。</p> <p>施策体系図を第3章の最終頁に掲載します。</p>
50	アンケート結果から問題点を拾って、第一次計画の課題とし、それを第二次計画で具体的な取り組みとして挙げてほしい。	意識・実態調査等を含めて、第一次推進計画の成果と課題を検証し、それを踏まえて必要な方策を記述しております。
51	子どもの読書の推進に、総合的な施策を展開されていることに感謝します。社会生活のあらゆる点で、行政の施策の在り方が大きな役割を果たします。その中で、拠点となる図書館と教育機関に加え、民間のボランティアや取組が重要な機能を発揮します。現在の施策の条項で良いのではないのでしょうか。	頂いたご意見を参考に、本市としましても子どもの読書活動推進に資する取組の充実に努めてまいります。

その他の意見

No	意見等の概要	宇治市の考え方
52	<p>市立図書館についてですが、私は京都市と宇治市の境に住んでおります。同じ様に利用（借し出し）できる様にして頂けると、子供だけで利用することもできるので、図書館が身近になり、親としては助かります。ぜひ、府としてご検討して頂きたいと願います。</p>	<p>市立図書館の貸出サービスが利用できる方の資格については、各市町村で条例・規則などで定めていますが、多くの場合、その市区町村に住民登録をしているか、通勤・通学している方に限っています。そのため、大変ご不便をおかけしております。頂いたご意見は、関係機関に伝えさせていただきます。</p>
53	<p>図書館は宇治市が直接運営し、指定管理者制度を取り入れるべきではありません。</p> <p>専門職によって業務が行われる図書館は、言うまでもなく市民の教育機関です。学校と同じように、市によって直接運営されなければなりません。新聞等でも、「図書館には指定管理者制度はなじまない」との論説が強くなっていることは市でもご承知のことと思います。効率優先で政策を立てられることのないよう、改めてお願いしておきたいと思います。</p>	<p>市立図書館への指定管理者制度の導入につきましては、まだ、全国で導入実績が少なく、その効果や問題点についての情報も多くありません。当面、直営で管理運営を行い、引き続き情報収集に努めてまいります。</p>